

第四十回 「全日本中学生水の作文コンクール」

広島県優秀作文集

平成三十年 広島県土木建築局

目次

優秀賞

雨を無駄にしない

広島城北中学校

一年

加藤

正己

今の私達にできること

銀河学院中学校

一年

谷口

菜夕子

水とともに生きる

銀河学院中学校

一年

森

歩華

入選

日本の「水」を世界へ

広島城北中学校

三年

平川

陽生

新たな水資源

広島城北中学校

三年

浴

星陽

豊かな水源を効率良く活用する

広島城北中学校

二年

宇賀

新

日本の水の安全性に感謝

広島城北中学校

一年

森本

悠

水は生命の源

銀河学院中学校

一年

阿部

真之

水には、限りがある

銀河学院中学校

一年

池本

育未

水の危機

銀河学院中学校

一年

宇田

恵梨

雨を無駄にしない

広島城北中学校 一年 加藤 正己

今まで雨の日に考えることといえば、車を汚している黄砂を洗い流してくれたり、花粉症の自分にとっては深刻なスギやヒノキの花粉を、できるだけ空気中からなくしてくれてありがたいなあ……という程度でした。雨水を利用できることといえば、植物への水やりや、雨の日にベランダを掃除する位だと思っていました。

けれども、雨水が身近なところに活用されている例を、二つ知ることができたので、紹介します。

一つ目は、マツダスタジアムです。以前、トイレに入ったとき、流す水の色が少し茶色だったので、驚いたことがありました。母に聞くと、「雨水を利用しているらしいよ。」

と言っていたのを思い出しました。今回、インターネットで「マツダスタジアム 雨水」と検索してみると『大洲雨貯留地』の存在が分かりました。この施設は、広島市が浸水対策事業として、約四十五億円かけて平成二十一年に完成しました。平面図を見ると、マツダスタジアムのグラウンド、内外野の地下ほとんどが雨水貯留地として使われています。集められた雨水のうち十五分の一が、塩素消毒やろ過処理した後で、グラウンドへの散水、トイレ用水、周辺のせせらぎ水路へと再利用されているそうです。マツダスタジアム全体の仕組みが、とてもよく考えたらうそでつくられていると感心しました。

そして二つ目、先週可部線に乗っている時に見つけました。何となく広告を見上げてみると、

「エコと走ろう！限りある水資源を大切に使うことで、循環型社会の構築に貢献。私たちは、街に、人に優しい鉄道をめざします。」

という文章が目に入ったので、すぐに写真を撮っておきました。帰って確認してみると、JR西日本の車両洗浄には、一度洗浄に使った排水を

浄化して再利用していること、節水型トイレに更新したり、雨水もトイレ洗浄水として利用するなど、水資源を大切にしている内容が書かれています。

このように、雨水の再利用がいろんな所で始まっていると実感しました。水資源を大切にしようと考えている人がたくさんいるおかげで、水不足に悩まない生活ができます。二つの例で、雨水が循環できる資源であることを深く理解できました。今はまだ雨水を無駄にしているも、これから再利用を増やさないと困るのではないのでしょうか。

そのためには、他の利用方法①貯めた雨水を温めて、雪が多い地域の家の屋根に温水床暖房のように流せば、雪おろしの仕事の負担を減らせる②人が集まる場所の噴水や虹作りに利用する③夏の暑さを解消するために使う④をもっと増やしていく必要があります。大事な水資源である雨水を、循環できる仕組みがもっと広まってほしいです。

優 秀 賞

今の私達にできること

銀河学院中学校 一年 谷口 菜々子

私達の周りには水がたくさんあり、その存在は私達にとって必要不可欠です。

私はその身近な水の使われ方について考えていきたいと思います。水の使われ方には、主に三つあります。工業で使われる工業用水、農業で使われる農業用水、生活に使われる生活用水の三つです。

生活用水は食事や風呂、トイレなど生活する上でなくてはならないものです。私達は水道のじゃ口をひねればすぐに清潔な水が出てきて、それを飲むこともできます。そのためつい当たり前にあるものとして水の大切さに感謝することを忘れてしまいがちです。しかし外国に行けば私達日本人の常識は通用しません。水は無限にあるものではなく、限りある大切な資源なのです。日本は気候や地形にめぐまれているため、昔から水は豊富に限りなくあるものという意識が強くなるように思います。しかし、これは好条件にある日本特有の状態であり、世界では飲み水がなくて苦しみ、不衛生な環境の中で病気にかって死んでいく人が後をたたない状況です。

この作文を書くにあたっていろいろな水についての記事を読みました。その中でも日本から紛争地帯のアフガニスタンに行き、ボランティアで水路を建設しているお医者さんの記事が印象的でした。その先生は、農地があれ、農民が農機具でなく、銃を持ち戦争に参加している悲惨な状態から人々を救うために、水路を建設して彼らに自立した人間らしい生活を取り戻そうと一人で懸命に努力しておられました。一本の水路が多くの人々の生活を変えていく様子を見て水の大切さを改めて考えさせられました。

また、ここ何年海水を真水に変える研究がおこなわれているそうです。水を作り出すという技術が注目される一方で、日本は複雑な環境条件下

で昔から洪水から生活を守る治水技術も進んでいました。農業に不可欠な水を安定供給して災害から身を守るという難題を解決してきたのです。

また、日本は昔から節約精神が強く、水の使い方ひとつとっても無駄を節約することが可能です。

以前にテレビで岐阜県の郡上八幡の特集を見た時、美しい町並みの景観の中に水が生活の一部として取り入れられている様子を見て素晴らしいと思いました。昔からの工夫で水源から湧き出した水を上流から下流に向けて段段に区分を分けて上から飲み水、すい事用水、洗濯用水と分けて使っていました。また町中に流れる水路の水を夏の打ち水として使っている様子は風情がありました。

私達は水にめぐまれた美しい国に住んでいます。だからこそ先人達の知恵を受ついで豊かな生活に甘えることなく節約できるところは節約し、水の使い方を大切にしていくことを意識していかなければならないと思います。

優 秀 賞

水とともに生きる

銀河院中学校 一年 森 歩華

「水」という言葉を聞いてまず私がイメージするのは、一番身近にあるなくてはならない資源であるということです。地球は水の惑星と言われており、この水のおかげで、人間をはじめ様々な生き物や植物が生きていくことが出来ています。ただ、日本に住んでいると、水は使いたいと思えばどこでも簡単に手に入るものですが、それはダムや浄水場、各家庭に送るための配水管などの施設がきちんと整備されているおかげであることを忘れてはいけません。もし、安全な水を自由に使うことが出来なかったらどうなるだろうと想像してみました。飲み水が無いだけでなく、風呂も入れず、トイレも流せません。今回改めて、安全な水を毎日使えることは大変ありがたいことだと強く感じました。

このように、私達が快適な生活を送るために、水はなくてはならないものですが、それだけではありません。先日、旅行で家族と京都にある渡月橋を見に行く機会がありました。橋から見える桂川や周りの緑がとてもきれいで、大勢の観光客が、写真を撮ったり風景を楽しんだりしていました。桂川の水はとても澄んでいて、その流れている様子を見ていっただけで落ち着いた気持ちになりました。改めて、きれいな水の力はすごいなあと感じました。水が人の心に癒しを与えてくれることに気付かされた体験でした。私が住んでいる街には芦田川という川が流れていますが、中国地方の一級河川の中で一番汚れているそうです。その汚れの原因の七割が各家庭から出る生活雑排水の流入によるもので、水をきれいにするためには、地域住民の一人ひとりの問題意識と取り組みが非常に重要と言われていることを知りました。私は、芦田川も桂川のようにきれいな川になって欲しいので、出来ることをこれから少しずつでもやっていきたいと思いました。具体的には、台所から流す水を出来るだけ少なく、かつ、汚さないで流すように心掛けることです。残飯を減らしたり、少ない洗剤の量で皿を洗ったり、家族みんなで作れることから実

行していきたいです。

一方で、水は私達に災いをもたらすこともあります。大雨による洪水や土砂崩れ、地震による津波などがそれに当たります。私は、これまで生きてきて、そのような災害にあったことはありませんが、テレビのニュースなどで災害の映像を見る度に、実際に私が災害にあつたらどうなってしまうだろうと、とても不安な気持ちになります。ゲリラ豪雨など水がもたらす災害も最近増えてきているので、日頃からどのような備えをしておくべきか、どのような行動をとれば安全かを学んでおきたいと思いました。

水は、私達に大きな恵みと癒しを与えてくれる大切な資源です。今後「安全できれいな水が自由に使える社会」を維持できるように、私もこれから色々な事を学んで社会に貢献できるようにしていきたいです。

日本の「水」を世界へ

広島城北中学校 三年 平川 陽生

日本の水はとてもきれいだ。これは誰もが知っていることだ。そして、その水は浄水場や下水場で処理されていることも当然知っているだろう。では、浄水場では具体的に何をしているのだろうか。

僕が、浄水場という施設のことを初めて知ったのは小学四年のときである。当時、学校の社会科見学で近くにある牛田浄水場へ行く機会があった。そこで、「濾過」という言葉を初めて知ったのである。僕たちが使う水は川から採取されるのだが、そのままでは不純物が多く含まれておりとても飲めるものではない。それを飲めるようにするためにポリ塩化アルミニウムで大まかな汚れを取り除いた後、細かい汚れを砂と砂利の層で落とすのである。当時はこの砂と砂利の層で汚れを落とすということを詳しく学んだ。その時は正直あまり理解することができなかったが、今では理解できている。

こうした施設は日本国内にたくさんある。その中でも浄水場の数は二百以上にも及ぶ。全国平均は5個で、その一つ一つが日本の水をきれいにするために働いている。しかし、このような施設を運営するには膨大な量の費用がかかる。さらに、毎日私たちが使う量の水を濾過しているため資源を大量に消費しているということにもなる。そうなる環境破壊にもつながってくるだろう。では、僕たちができることは何だろうか。水を節約することはもちろんのこと、濾過の仕組みについてさらに詳しく調べたり、もっとより良い方法はないのか模索するのも手だろう。僕たちにできることはまだあまり多くはないが、このように「水」について考えることはできる。「水」を「限りある資源」と認識して、電気や化石燃料のような他の資源と同じくらい大切にすることということが重要なのである。

さて、これまで日本の「水をきれいにする技術」について触れてきた

が、海外に向けて日本の技術を発信しているという点についてはどうなのだろう。世界の中では、今も水を手に入れられずに困っている人はたくさんいる。特にアフリカや東南・西アジアの国々では水を手に入れるのに苦労している。では、このような国に対して日本はどうしているのだろうか。今回はその中でも「Kubota」という会社を紹介しよう。この会社についてはTVCMなどで見たことがある人もいると思う。この会社は、水問題を始めた地球環境に対してグローバルな視点で向き合っている会社である。その中でもバンングラデシュを始めたアフリカの国々に水道や下水道したという事業が有名である。この会社のキャッチフレーズは「壁がある。だから行く。」である。このフレーズどおりに国境や人種という壁があっても恐れず向き合うのである。

このような会社に勤めるのも水について考える一つの手だと思う。水について事業に参加することで日本の水再生・濾過技術を世界に発信するための手助けとなるのだと思う。

このように「水」という単語を一つ取っても多くのことが思い浮かぶ。それだけ、「水」は僕たちの生活に深く関わっているのである。その「水」を守るためにもよりいっそう努力を続けていかなければならない。今は大丈夫だが、これから先はどうなるか分からない。だからこそ「水」について考える必要があるのだと思う。

新たな水資源

広島城北中学校 三年 浴 星陽

水と聞くと私は大切なものだと思います。しかし、日常生活ではそれを感じることも少ないです。だからこの機会に水について調べてみました。

水には蛇口から出る水などだけではなく、バーチャルウォーターというものもあるようです。バーチャルウォーターは日本語で言うと仮想水で、食料や畜産物の生産に要した水の量を、農産物や畜産物の輸出入に伴い、売買されていると考えているもので、この考え方は米一合には約五百五十五リットルの水が必要だということになります。また、牛肉百グラムでは二千六十リットルの水が使われていることになりました。

だから、水を大切にすること、蛇口から出る水を節水するだけではなく、残さず食べるということにも関係があるのです。また、一つの食品バーチャルウォーターの量も同じではないので、どのような食品がどれほどバーチャルウォーターを使用しているかも知り、考えて消費することが大切です。

日本には川やダムがたくさんあり、降水量も多いので、水資源は豊富に感じられますが、バーチャルウォーターの考え方は、日本は海外の水に依存しています。日本は食料自給率が低く、食料輸入などで大量のバーチャルウォーターを輸入しています。日本はとうもろこしや大豆、小麦などの輸入でバーチャルウォーターを輸入しています。また、その小麦を食べる牛はもつと大量のバーチャルウォーターを消費し、それを輸入することで大量のバーチャルウォーターを輸入していることになります。

さらにこの輸入されているバーチャルウォーターには枯渇が懸念されている地下水も含まれています。だから、世界の水不足などの問題は

日本に無関係ではないのです。しかし、牛肉を食べず、それを使ったファーストフードも食べないなどは不可能です。今できることはこのバーチャルウォーターという考えでどの食品がどれだけ水を使用するのかわかり、消費しすぎないようにする必要があると思います。こうして、私たちが消費をおさえることで、輸出するために水を消費しすぎてしまい、水不足や枯渇する地域も減ると思います。また、消費をおさえるためには多くの人にこのバーチャルウォーターという考えを知ってもらう必要があります。そのために、牛肉の消費が多いファーストフード店や食品にバーチャルウォーターの使用量を記載するべきだと思います。そうすれば、多くの人がバーチャルウォーターに関心を持ち、またどの食品がバーチャルウォーターの使用量が多いかも知ることができます。蛇口から出る水を無駄使いたくないことも大切ですが、食べ物を残さず食べることも大切だと思います。さらにそれが大切な水を守ることもつながるでしょう。

豊かな水源を効率良く活用する

広島城北中学校 二年 宇賀 新

日本はとても水資源に恵まれてると思う。なぜなら、日本は川も多くそのような水を利用して人々の生活を担っているからだ。

例えば蛇口から水道の水を直接飲むことが可能であることや、下水道の管理・処理などが可能であるものも日本の綺麗で恵まれた水資源があるからである。

しかし、いくら恵まれた水資源があっても限りがあると思う。そのために今までは川の水などを人々の生活に利用していたが、これからは海水も利用したらいいと思う。

だが、海水を生活用水として使うときには人々が直接水道の水を飲むために海水を淡水化させる必要がある。それを可能にした国の一つがシンガポールである。

元々シンガポールは降水量は多い国だが、国土は狭くて保水力が乏しいため隣国のマレーシアに水を輸入してしのいでいた。その水問題を解決するため、三つの事を最重要課題として対策を推進してきた。

一つ目は貯水である。「雨粒を一滴たりとも無駄にしない」という方針から貯水池を十七カ所に拡大し、確保できるようにした。

二つ目は下水再生水である。通常の下水処理水をマイクロフィルターと逆浸透膜でろ過して紫外線で殺菌処理した高度処理水「ニューウォーター」を開発させた。

三つ目は海水淡水化である。現在はニューウォーターで需要の三十八パーセント、海水淡水化で十二パーセントを占めるほどに重要な役割を果たしている。

このような技術は世界中の事業が参加しており、日本の会社もシンガポールの技術に貢献している。僕は日本の技術で必要なのは二つ目の下水再生水と三つ目の海水淡水化の技術だと思う。理由は三つある。

一つ目は下水道の水を再利用することが可能なのであれば、人々の生活が楽になるからである。

二つ目は海水淡水化することも可能なのであれば、海水の割合は九十六・五パーセントで淡水の割合は三・五パーセントで海水の方があきらかに多い。しかし、人々の生活用水に利用されるのは、淡水であり困らなくなると思ったからだ。

三つ目は、せっかく海水という想像できないほどのたくさん量があるのに、水に困っている国があるというのは不思議である。また水に困らなくなれば水をめぐっての争いがなくなるし、そのために命を落としてしまう人も助けることができると思う。こんな良い事は無いと思うし、するべきだと思ったからである。

また、水不足で引き起こる環境問題がある。

例えば、干ばつや水質汚染である。これによって魚の大量死・食料不足・飢餓といった深刻な被害をもたらす。そのために、発生時の国際緊急援助隊派遣や物資提供・対応策を作るための人材育成・環境保護・水不足の状況下でも育つ作物の研究・資金的な支援も必要だと思う。

また、日本は地震大国である。災害時に水の供給の道が断たれると遠い所から供給してもらおう他無い。その間に水が足りなくなると人が亡くなってしまえば、避難した意味が一切ないと思う。だから、他の水の供給方法を考えることが大切だと思う。

例えば、避難場所の学校とかの地下に下水再生水や海水を淡水化させた水を貯蓄したりすれば遠いところから供給されるまでに人々の生活が助けられるほか、命も救える可能性が高くなると思う。そのためにも水以外にもお互いに協力し合えることが大切だと思う。

僕は豊かな水源を効率良く活用するために地球上にたくさんある海水を淡水化させて人々の生活に役立たせたり、下水の水を真水に変えて蛇口から水を直接飲むなどの再利用できる技術を発明するのが一番大切だと思う。

日本の水の安全性に感謝

広島城北中学校 一年 森本 悠

考えてみたら僕は生まれて飲み水やお風呂やトイレ等、水に囲まれた暮らしを当たり前にしている。当たり前過ぎて今まで考えてこなかったけれど少し考えてみようと思う。以前、父に人間の60パーセントくらいは水でできているんだという話を聞いたことがある。つまり、人間と水とは切り離すことのできない関係という事だ。例えば、「水道」だが日本は蛇口の水をそのまま飲んで安全だ。そこで、両親が海外へ行った時の話しを思い出したがシャワーの水は黄色くて体を洗うのは大丈夫だったけど飲んだらいけないと言われて飲み水は朝にペットボトルの水をお金を出して買いに行っていたらしい。飲める水について調べてみると、日本が誇る水道システムは世界各国へ輸出されるほどレベルが高いらしく、水道からそのまま水が飲める国は限られており水資源が豊富で高度な浄化システムを持つ日本は恵まれた国であるといわれている。しかし信頼性の高い日本の水道水だが日本国内においては、その安全性に疑問を持っている人も多い、と書いてあった。そこで、祖母が水について話している事を思い出した。僕の祖母は保育園の調理の仕事をしていて水について話しをしてくれた事があった。とある保育園の保護者から保育園の水は安全ではないのではないのかとの問い合わせがあった時に園長先生が職員全員に「広島市の水道水は安全です。安心して飲ませてください」と保護者の方に聞かれた時に伝えてくださいとおっしゃった事を祖母が聞かせてくれた。水道の事をもっと知りたいと思い更に調べてみると「Lロリ菌」というワードが出てきた。それは胃の中に住みついて胃の粘膜を傷つける細菌らしく発見されたのは1980年代と比較的新しく慢性胃炎、胃潰瘍、胃がんなどの原因のひとつはピロリ菌だと書いてあった。しかもそれは、「水」から感染したという事だったので日本の水は安全ではないのかと不安になったが、これは昔の

汲み取り式のトイレや井戸水などを感染経路として広がっていたため高齢者ほど感染率が高く、日本人の約半分が感染しているとの報告もあるようだ。つまり、昔にそのような事があって上下水道の設備が完備された現代では「塩素」で殺菌をしているので安全ということが理解できて安心した。僕や家族が安全に暮らせるのは「水が安全だから」と言っても過言ではない。水をそのまま飲めない国の人も現在もいて「水」を飲む事で命を落したり病気になったりして働くこともできず困る人もいるだろうし「水」がなくなっている地域の人もいて、例えば災害等でニュースでよく目にするのは「水」を求めて長蛇の列ができている映像で常にある水がなくなった時に本当に水のありがたみを実感できるんだと思う。僕は災害に遭った事はないけれど平成26年8月の豪雨による広島市の土砂災害の時に僕の父と母は被災地へ行って豚汁の炊き出しに行ったりして、やはり水が不足しておみそ汁を作るのにも水が必要でペットボトルに水を入れたものを持参して作ったり被災された方々は大変そうだったと聞いた。水について、この作文を書く事で家族と話し合えたり自分がいつ被災者となり水に困る生活を強いられるかわからないという事や、一番は自分がお風呂に入れたり顔を洗えたり、トイレに行けたり、水に関する全ての事に初めて心から感謝ができたと思う。安全な水を飲める環境を作って下さっている方々がいる事を忘れずに水を大切にして、ありがたいという気持ちを忘れないように生活を送っていかうと思った。

水は生命の源

銀河学院中学校 一年 阿部 真之

水は全ての生き物にとって必要不可欠なものです。水の無い所ではどんな生き物も決して生きて行くことが出来ません。水の無い所で生命が誕生することもありません。

太陽の光りが届かない深海でも、南極や北極の厚い氷の下の海でも、有害ガスや熱水が噴出している所でも、水がある限り生き物が居て生きています。火星でも地表の下に氷があることがわかって、その下に液体の水があれば何らかの生物がいると言われています。最近では土星の第2衛星エンケラドゥスの表面に氷があって、内部で火山活動により液体の水がある可能性が高まり、そこに生物が居るのではないかと言われています。

しかし、それだけ生命に必要で大切な水を私たちは本当に大切にしているのでしょうか、毎日水を飲んだりお風呂に入る時に何かを思ったり感じたりしているのでしょうか、自分自身気にしないことの方が多いと思います。水道の蛇口から水が出るのは当たり前、毎日水が飲めてお風呂に入ることが出来る。コンビニやスーパーに行けば必ず水が売られて買うことが出来る。

もしこの世の中から水が全て無くなったら人間は数日で絶滅してしまいます。全ての生き物も死んでしまいます。だから水は全ての生命の源であって水こそが生命の鍵と言えると思います。

人間は平気で家庭の排水や工場からも排水を川や海へ流して汚しています。水道から出る水を節約することも、大切に思うこともしないで使っています。生命に必要な大切な存在であることを忘れてしまっています。

それは、水が無制限な物だと勘違いしているからだと思います。どれ

だけ使っても雨が降って川に流れて浄化されて、また水道水になって飲むことが出来ると考えているからだと思います。父が子供の頃にある外国人の作家が書いた本に「日本人とユダヤ人」と言うのがあって、「日本人は安全と水はタダだと思っている」と言う内容があったそうです。今でも気持ち的にはそう思っているように思います。水道水を使えばお金はかかりますが高額とは言えないと思います。私は働いてお金をもらっているのではないので金額について言える立場ではないのですが、一般的な考え方だとそうなると思っています。

しかし、その決して高額ではない水も無限ではありません。川や海を汚し続け無駄に使っていけば飲める水は少なくなってしまう。近い将来地球上の人類は干ばつや大気汚染による気象の変化で、深刻な水不足になると言う学者の人も居ます。そのくらい水不足は危機的に考えるべきことだと思います。

まだ間に合う今だからこそ日頃の当たり前のことをもっと深く考えて、努力出来ることから生活を改善しながら、生命の源である水を大切にしていきたいと思っています。

水には、限りがある

銀河学院中学校 一年 池本 育未

私は、家族旅行のドライブの途中で立ち寄った、ある道の駅のトイレの中でこんなチラシを読みました。

『この町は山間部に位置しているため、平野部に比べ水が豊富にないの
で町の人たちと協力して雪解け水を節約しながら大切に利用していま
す』と、書かれています。なのでトイレの水を節約して使ってください
いと、という意味でした。そこで私は、私達が住んでいる福山は、芦田川
など大きな川などがあり水が山間部に比べてたくさんあるけれどこの
町は、水が限られているんだなと思いました。こういった事を思ったの
は、初めてでした。これまで、

「トイレ行っても水は出る。」

と、言う事すらあまり考えていませんでした。

なので、まずは私達はふだんどんな所で水を使っているのか、という
所から考えてみる事にしました。水は私が思っているより色々な所で使
われていました。手や顔を洗ったりする時、お茶をわかす時、トイレの
時、お風呂の時、水やりの時、せんたくの時、などがありました。これ
は、全てとても大切なことで、水がなくなるとこれらの事が出来なくな
ると衛生面から見ても病気や食中毒などになりかねないし、お茶や飲み
物がなくなると、脱水症状なども死にいたる危険性も、出てきたりなど、
水がなかったら大変なことばかりになっていました。私達の生活の中に
水は、絶対必要な物で、ないと前のようになってしまいます。なので限
られた水は、大切に使うていかなかないといけないと思います。

そして、その水を大切にするためには、どうしていいかを考えて
みようと思います。まず一人で三百四十リットルぐらいの水を使っ
ていてトイレで28パーセントお風呂で24パーセント炊事23パーセ
ント洗濯17パーセントぐらいをそれぞれ使っています。それぞれ減ら

していくためには、洗濯を数日に一回にしてみるというのもあります。
一回の洗濯で、何十リットルは使うので数日に一回にする事でその分の
何十リットル分が減るのでかなり節約になると思います。お風呂の場合
は、毎日入っても節約できる所は、あるはずなので少しでも節約を意識
する事もいい事だと思います。例えばシャワーは一分間に約12リット
ルを消費しています。なので細めにシャワーを止めてみたらいいと思
いました。お湯の張りがすぎにも意識してみようと思います。炊事の場合、
水を流しっぱなしにしないといいと思います。いちいち止めるのは面
倒だし、食器・野菜などを洗ったり、水を使う場面も多いけれど注意し
てみたらいいと思います。油などの汚れがある時は、ずっと水を流さ
ずに水につけて置いたりしたらいいと思います。このように、注意・意
識をしたら節約出来る所は、たくさんあります。

この中で、自分でも出来ることを見つけたらいいと思います。

水の危機

銀河学院中学校 一年 宇田 恵梨

私達にとって、水とは生きていくために必ずいる物です。そして全ての生き物の命の源でもあります。宇宙から見た地球は、青くとても美しい物です。水である青は、地球三分の二を占めています。生物が生きるために必要な真水は降水という形で地球全体に降り注いでいて一年間で約四十六万六千リットル降っています。しかし、その内の八割程は海に降っているのです。地上に降ってくる真水は、二割程で約十一万リットル程です。この中で私達人間が使う事が出来る真水は、四万リットル程です。このわずかな水を、いかに大切に使うかという事はとても重要な事だと思います。

降水から地下水から河川から湖沼から河口そして海という水の循環がありますが、この水の循環に人間が介在すると水自体が汚れてしまっています。そのため水をきれいにしていた自然のシステムがこわれていきます。まず水をきれいにするという自然のシステムとは、どんな物なのでしょう。自然のシステムで一番大切な部分は今減少している森です。森に入ると地面がしっかりとしめっていて降水は、一時的にこの地面にしみこみ地下水として、たっぶりたくわえられ、およそ一年ほどの時間をかけ湧き出てきます。この機能は、降水が少ない時多くときも一定量をたくわえて湧き出てきます。そのため、一度の降水が多くても森の地面で一時的に降水が留め置かれ、一気に流れ出さず、洪水などの災害が起こりにくいようになっていきます。森は、水をたくわえるそのため「緑のダム」と呼ばれています。森の役割は水量を調節するだけではありません。水質という面でも大きな役割を果たしています。雨に含まれている、ちっ素や硝酸そしてリンなどを森が吸収します。すると湧き出てくる水は吸収された分きれいです。また、ちっ素などを吸収し大地にしみこめさせるため土じょうが肥沃になり、大地や水を汚す原因となる、化学肥料や農薬を使わずに作物をつくる事ができるようになります。

また、湧きでてくる水も、いくつもの地層を通りぬける事でろ過されきれいな水となり、地下水としてたくわえられている間に地中のミネラルが取り込まれ美味しい水となっていきます。しかし、多くの地域で、木を切る事により森がどんどん少なくなっている現在では、ちっ素などが降水として降って来ても吸収してくれないためそのまま河川や湖沼に流れ込んでしまっています。この事が原因で富栄養化という大きな問題の原因となってしまっています。木を切る事により住む場所が増え便利になっていきます。しかし、便利さばかりを追求していき、私達は自然の循環をこわし、一瞬の便利を追求し、その便利のせいでの不便をなくすためにまた、自然をこわし便利を追求していく。一瞬便利になったとしてもこわした代償がおそってくるこの悪循環がくり返され、私達は、便利さを追求するあまり、自然という大切な存在の力と偉大さを忘れてしまっています。

私達は、化学の力で自分達の生活を便利にしていくだけではなく自然の力で、おいしくてきれいな水やきれいな空気を得なければいけないと思います。化学の力と自然の力を合わせる事によって便利で、よりきれいな地球をつくれるのではないかと思います。